



「平和の靴下」などと名付けられた手編みの作品。「編み物をするとうれやうが落ち着く」と話すマルティナさん(京都市中京区)

色彩豊かな靴下作り

手作り市で人気

京在住の独女性、アフガンの平和願ひ……

靴下作りのきっかけは、米中核同時テロを機

収益金の一部、支援に

京都市在住のドイツ出身の女性が、アフガニスタンへの報復攻撃。アフガニスタンの平和を願ひ、手編みニスタンで、子どもたちみ続けた。二年前から編み続けられている。「平和の靴下」と名付けられた作品はドイツの色彩豊かな毛糸で編まれており、京都市内で催される手作り市で人気上昇中。女性は収益金の一部をアフガニスタンの女性や子どもを支援する任意団体に寄付している。

中京区の梅村マルティナさん。一九九四年に来日し、京都YWCA(上京区)で編み物も教えている。

靴下のほかに、「アフガー、I.sate@01.com」

「洗いできる色鮮やかなドイツ製の毛糸で編まれていることもあって、リピーターもいるという。マルティナさんは「編み物教室を通してボランティアも生まれている。できてほしい」と考えた時、きただけ続けていきたくてほしい」と話している。

問い合わせはメールアドレス flaunendorf@u01.sate@01.com

セーターなど十種類を手がけている。上賀茂神社、百万遍知恩寺、梅小路公園などで開かれる手作り市に、抽選で場所が確保できれば出店。収益の一部を「宝塚・アフガニスタン友好協会」(TAF A・兵庫県宝塚市)に寄付している。二〇〇六年は約二十万円、〇七年は約三十万を送った。

TAF Aによると、孤児にサッカーやバレーのボールやユニホームを買ったり、小中学校のフアンの購入費などに役立てているという。